

〈論 文〉

接触場面における日本語学習者の中間言語の特徴

—詫び表現に注目して—

郭 碧 蘭

キーワード：接触場面，中間言語，詫び，定型表現，ストラテジー

1. はじめに

外国語学習者はその言語を学んでゆく過程で、目標言語とは様々な点で違った体系を持つ特徴的な言語を発する。これを中間言語と呼ぶ。この中間言語という概念はラリー・セリンカー (Larry Selinker : 1972) によって提唱されたものである。すべての言語において、その個別の学習者には中間言語が存在する。もちろん、日本語学習者も例外ではない。一方、この中間言語は当然、学習者の習得レベルや学習内容、母語などに影響を受ける。たとえば日本語のみを母語とする者が話す英語は、英語を母語とする人たちのそれとは違っているのが普通である。また、中国語母語話者の日本語も日本語母語話者のそれと異なっている。文法や発音が少し違っていたり、特定の表現が多く用いられたり、またその反対にほとんど用いられなかったりと、個人によって異なり、さまざまなバリエーションがみられる。このように、ある一定の規則を持ちながらも、目標言語とは異なる学習者の言語は、分析することで、習得上の困難点を明らかにすることが期待できる。一方、異文化間コミュニケーションをする際のさまざまな言語行為の中で、謝罪行為は非常に重要なものであると考えられる。それは、謝罪行為が自らの非を認め、相手に許しを請う行為であり、またそれが話者個人の性格や価値観、そして双方の不利益に与える程度、土地の風習、社会文化などによって異なるものであるからである。とりわけ、日本語使用場面が増えつつある今日において、異文化をもつ相手との接触は避けて通れないこととなってきている。こうした中で、異なる言語文化間の誤解や問題を回避して、円滑なコミュニケーションを行うためには、謝罪行為の中核となっている詫び表現を言語間で対照し、その特徴を明確にすることはきわめて重要な課題である。また、詫び表現は人間関係の修復や維持に直接かかわる行為であり、社会関係の重要な部分を担う行為でもある。そのため、詫び表現がどのように遂行され、またどのように解釈されるかを知ることによって、学習者に明白な形で適切な表現の仕方を提示することができると思う。

2. 研究目的

謝罪の習得研究においては、言語学習者の謝罪発話や談話の特徴を明らかにすることで、学習者の母語と学習言語間の相違点、習得の困難点、指導方法などに示唆を提供することができる。そこで、本研究では、JFL (Japanese as a foreign language) として学ぶ学習者が、日本語 (目標言語) と中国語 (母語) で謝罪をする場合、どのような違いが見られるか、また母語による影響及び中間言語語用論的な特徴はどのようなものであるかについて、第二言語習得の観点から考察し、その傾向を明らかにしたい。そして、本研究により得られる日本語学習者の謝罪談話の特徴及びその傾向を通し、日本語教育及び異文化間コミュニケーション教育の示唆となるものを提示できればと考える。

3. 研究方法

本研究では、自然談話に近いデータを分析するために、ロールプレイによる学習者の謝罪談話を採取し、そのすべての発話の文字起こしをして、全体を考察する。なお、データ採取に関しては、実生活で親しいクラスメートか友人の二人のペアで、謝罪側と被謝罪側を演じてもらった。そして同一学習者による日本語と中国語の2通りの実験を行った。実験場所は普段学生がよく利用する大学構内の文化教室であり、学生生活で実際に起こり得るような内容を課題とし、謝罪行為の遂行過程そのものをビデオ及びICレコーダで録画、録音した。また、補足形で協力者に対し、フォローアップインタビューも行った。なお、Fraser (1981) では、謝罪の発話行為に影響を与える要因として、違反行為の性質、違反の深刻さ、違反が起こった状況、会話参加者の親しさ、謝罪者の性別などがあると述べられているため、これらについてはすべて配慮し、会話実験を行う際、条件統制をした。

4. 分析データ

分析データは2011年4月1日に行った日本語学習者と日本語母語話者の会話実験によるものである。被験者は学習者二人 (TF1, TF2) 及び母語話者 (JM3, JM4) 二人である。いずれも謝罪側は学習者、被謝罪側は母語話者という接触場面である。学習者は20代の女性で、台湾の大学に在籍し、日本語学習歴は3~4年で、日本語能力試験N2を取得している¹。謝罪事項の出来事は大谷 (2008) を参考に作成した。具体的な内容は次のロールプレイカード謝罪側及び被謝罪側カードの示すとおりである。なお、学習者の中間言語語用論的な特徴をみるため、学習者の母語 (中国語) による謝罪の談話も加えて分析・考察する。

(謝罪側カード)

あなたは宿題をしている友達に声をかけ、いろいろ話しているうちに、不注意でコーヒーをこぼし、作業中のパソコンの画面が消えてしまった。あなたはどのように対応するか、あるいはどのように友達に謝罪するかを話してみてください。

(被謝罪側カード)

あなたは明日提出しなければならない宿題をしている。その時、友達が話しかけてきたが、不本意でコーヒーをこぼされてしまったため、作業中のパソコンの画面が消えてしまった。あなたはどのように反応をするかを話してみてください。

5. 結果・考察

5.1. 謝罪ストラテジー

学習者の謝罪ストラテジーでは、母語も目標言語も同じような傾向にあることがわかった。談話レベルからみると、日中2言語の使用では、典型的なパターンとして、[現状確認] → [解決案の提出] → [弁償・代案]、というストラテジーがあげられる。下はTF2がJM4にコーヒーをこぼしてしまった後、TF2がJM4の作業状態を確認しつつ、解決案や弁償などを申し出る談話である。

TF2 「ごめん。JM4 君ごめん、だ、だ、大丈夫？」

JM4 「あ、キーボード動かんねー。」

TF2 「大丈夫？ しゅ、宿題。」…………… 【現状確認】

JM4 「どうしようー。」

TF2 「ごめん。」

JM4 「やばい。」

TF2 「ごめん。」

JM4 「とりあえず明日提出やから、終わらせんと。」

TF2 「あれ、じゃあ、も、もう一回ああけ、あ開けてみて。たぶん大丈夫かも、わからないけど。」
…………… 【現状確認】

JM4 「うん、あ、電源つかんねー。」

TF2 「ホント？ えー、ど、どうしよう。」

JM4 「どうしよっかねえー。」

TF2 「じゃ、じゃあ、資料は？」…………… 【現状確認】

JM4 「資料は、ちょっと止まっちゃったからね、データ消えちゃったかもしんない。」

TF2 「えー。」

- JM4 「どうしようー，明日提出やから。」
 TF2 「どうし，あ，明日できないといけないよね？」
 JM4 「ど，うーん。」
 TF2 「えー，どうする？」
 JM4 「あー，どうしよっかなー，今日中。」
 TF2 「じゃ，じゃ，じゃあウチが，」
 JM4 「キーボードもちょっとパソコンも，マウスも動かんし。」
 TF2 「やる。あの，あの，あの授業の，あの授業のテスト，あの宿題。」……………【解決案の提出】
 JM4 「えっ，なに？ TF2ちゃんがやるの？」
 TF2 「うん，うん，うん。」
 (中略)
 TF2 「この，でも，どっとし，キーボーが，ここ，壊れた，よね？」
 JM4 「どうする，キーボード，まあ，でも，どうしよっかな，古かったからさあ，まあそろそろ。」
 TF2 「じゃあウチが，買ってあげる。」……………【弁償・代案】
 JM4 「あ，マジで？」
 TF2 「うん。」

また，学習者は接触場面に限らず，母語の使用場面においても，積極的に自分の起こした問題を解決しようとする点が共通である。これはおそらく，謝罪行為の成立には，詫び表現のほかに原状を回復するつもりである，という意志伝達が必要だと考えられがちだからではないだろうか。これについての言及はまた稿を改めたい。

5.2. 修復作業の遂行

謝罪行為は人間関係を修復する作業であるため，それを遂行するには，中国語では[心情表明] + [詫び表現]を多用するが，日本語では[詫び表現]のみの使用が目立つ。以下はそれぞれの会話例である（以下の日本語訳は筆者によるものである）。

- TF1：現在…，那不然我，我就快賠給你！我今天去買好了！
 (今，ええと，じゃ，弁償するからね。今日，買ってくるね。)
 TF2：其實不用了啦！鍵盤沒多少錢啦！
 (いいのよ。キーボードは大したものじゃないし。)
 TF1：沒關係啦，是USB跟鍵盤。(いや，やっぱり…。USBとキーボードだよ。)
 TF2：不用啦。(いいのよ。)
 TF1：欸，你這樣子我很過意不去。……【心情表明】
 (これじゃ，すまないわよ。)

(中略)

TF2: 那我明天再收就好。(じゃ、明日メールをチェックしてみるね。)

TF1: 對對。〈合掌〉對不起。對不起。……【詫び表現】

(そう、そうして。〈両手を合わせて〉ごめんね、ごめんね)

TF2: 沒關係。沒關係。(気にしない、気にしない。)

TF1: 對不起。(ごめんなさい。)……【詫び表現】

TF1 「動かない? 動かせない? ごめんねー。」……【詫び表現】

JM3 「はあー。」

TF1 「ごめん、大丈夫ですか?」……【詫び表現】

JM3 「おい。」

TF1 「ごめん、ごめん。」……【詫び表現】

JM3 「ちょっと、マジでえ?」

TF1 「ごめんなさい、ちょっと、どうしよう?」……【詫び表現】

5.3. 定型表現の使用

謝罪ことばの定型表現の使用に関しては、中国語ではあまり使用しないが、日本語では頻繁に使用することがわかった。同じ談話の場面である、コーヒーをこぼしてしまった瞬間での発話を取りあげてみると、その傾向がいっそう際立っている。たとえば、次の例をみてみたい。

JM3 「あ、ちょっ、は?」

TF1 「ごめんなさい。あの一。」

JM3 「えっ、ちょっと待って。」

TF1 「どうして? どうして? なんで?」

JM3 「ちょっとちょっと、ティッシュ。」

TF1 「なんで? なんで?」

JM3 「ちょっと、ティッシュ、早く取れ。」

TF1 「ごめん、ごめん」

JM3 「ちょっ、ウソ?」

TF1 「ごめんごめん、ごめんごめん、あー。」

JM3 「ちょっと、早くよこせ、よこせ。」

TF1 「あー、ごめんなさい。」

JM3 「うそっ?」

TF1 「まだいけるの?」

JM3 「えっ?」

TF1 「資料まだ残っているの？」
 JM3 「ちょっと待って、はあ？」
 TF1 「ごめんなさい……。」
 JM3 「ちょっと待て。」
 TF1 「まだ怒ってる？」
 JM3 「ちよつとうるさい、ちよつと待って。はあ？なんで動かないの？」
 TF1 「動かない？ 動かせない？ ごめんね。」
 JM3 「はあー。」
 TF1 「ごめん、大丈夫ですか？」
 JM3 「おい。」
 TF1 「ごめんごめん。」
 JM3 「ちよつと、マジで？」
 TF1 「ごめんなさい……ちよつと、どうしよう？」
 JM3 「はあー。」

上記の会話のように、TF1はコーヒーをこぼしてしまった瞬間、詫び表現として「ごめん（なさい）」(下線部)連発のように発していることがわかった。これは相手への詫び表現として、また相手の怒りを抑えようとして、それが最適な言語表現であるとTF1が考えているからであろう。一方、中国語の場合はどうであろうか。次に同じ場面(談話の段落)をみてみよう。

TF1: 是喔…耶。你這裡打…。(そうなんだ。へえー。ここで打って。)
 〈コーヒーをこぼしてしまった〉
 TF1/TF2: 噢。(おー、とっと…。)
 TF1: 對不起。對不起。(ごめん、ごめん。)
 TF1/TF2: 啊。怎麼辦? 怎麼辦?(ああ、どうしよう、どうしよう。)
 TF1: 怎麼辦? 怎麼辦? 你, 你你還可以再開電腦嗎? 電腦還可以打開嗎?
 (どうしよう、どうしよう。もう一回開けられるの? パソコンまた立ち上げられそうなの?)
 TF2: 不知道耶。我, 我開開看好了。(知らないわ。開いてみるからね。)
 TF1: 你重新開開看好了, 因為螢幕好像不見了。
 (もう一回開いてみて。スクリーンが消えたみたいだし。)
 TF2: 嗯。我重開看看。(うん、開いてみるね。)
 TF1/TF2: 嗯。(うん)
 TF2: 阿咧? 阿阿~, 有了有了有了。(あれっ? あっ、あー、あった、あった、あった。)
 TF1: 你檔案還在嗎? 你檔案還在嗎? 你找找看, 你找找看。有嗎? 還在嗎還在嗎?
 (ファイル、まだある? ファイル、まだある? 探してみて、探してみて。あったの?)

まだあるの？ まだあるの？)

TF2: 好好好, 我看一下喔。(はいはいはい, みてみよう。)

このように、談話開始部では、2回ほど謝罪表現の「對不起(すみません)」を使用した後、ほとんどみられなかった。そのかわりに、現状修復の確認や提案などで謝罪行為を行っているのだ。よって、学習者は謝罪の言語行為を行う際、母語と目標言語の遂行動詞の使用頻度が異なっていると考えられる。その違いは言語による相違であるか、または習得の問題なのかはさらなる検討する余地があるように思われる。

5.4. 再謝罪の有無

再謝罪の有無に関しては、中国語でも日本語でもみられた。ここでの再謝罪というのは、被謝罪側が一旦相手の謝罪を受け入れた後、謝罪側が再び謝罪することをさす。以下は談話の終結部にあつるTF2(謝罪側)による日本語と中国語での談話である。

JM4 「明日提出に間に合わせるから。それでいいかな？」

TF2 「はい。」

JM4 「なら、じゃあ。」

TF2 「じゃ、ごめんねえ……本当に。」

JM4 「しょうがないや……」

TF2 「じゃコレ、明日買ってあげるから。ごめんなさい。」

JM4 「わかった。オッケー。」

TF2 「ごめん。」

JM4 「オッケー。」

TF2 「うん、ありがとう。」

TF2: 那就這樣好了。(じゃ、そうしようね。)

TF1: 嗯嗯嗯嗯, 沒關係沒關係。(うん、うん、うん。いいのよ。いいのよ。)

TF2: 不好意思, 對不起啦。(悪かったね。ごめんなさい。)

TF1: 沒關係。哩低勒控瞎〈方言(台湾語):你在說甚麼〉沒事啦沒事啦。

(いいのよ。なに言ってんの。平氣, 平氣。)

TF2: 好啦。(うん、わかった。)

TF1: 好好好。(はい、はい、はい。)

TF2: 那就這樣。(じゃ、そういうことで。)

TF1: 好好好。(はい、はい、はい。)

上記の2つの会話例（下線部）から、学習者はどちらの言語でも再謝罪の遂行を行使していることがわかる。

5.5. 談話終結部の発話

談話終結部の発話については、学習者は陳謝だけでなく、感謝の言語表現をも使っていることがわかった。

謝罪行為が一連の談話によって成り立つことは、どの言語においても同じであると言える。しかし、言語・文化によって、談話の終結部で陳謝を述べるか、あるいは感謝を述べるかは必ずしも一様でないようだ。本データでは、学習者が日本語でも中国語でも感謝のことは行使していることがわかった。以下、4つの会話の終結部を取り上げてみていく。

【会話①】

TF1: 對不起。(ごめんなさい。) …… 【陳謝】

TF2: 沒關係。你應該沒燙到吧?(いいのよ。やけどは大丈夫?)

TF1: 沒有沒有。它已經涼掉了。沒關係。(ない、ない。もう冷めてるし。大丈夫だよ。)

TF2: 那就好了。(ならいいけど。)

TF1: 不好意思。謝謝。(ごめんなさい。ありがとう。) …… 【陳謝+感謝】

TF2: 不會不會…。(いや、いや。)

【会話②】

TF2: 不好意思，對不起啦。(悪かったね。ごめんなさい。) …… 【陳謝】

TF1: 沒關係。哩低勒控瞎〈方言(台湾語):你在說甚麼〉沒事啦沒事啦。

(いいのよ。なに言ってるの。平気、平気。)

TF2: 好啦。(うん、わかった。)

TF1: 好好好。(はい、はい、はい。)

TF2: 那就這樣。(じゃ、そういうことで。)

TF1: 好好好。(はい、はい、はい。)

【会話③】

JM3 「もう残り。残り6時間全部やる。」

TF1 「はーい。」

JM3 「手伝えよ、もう。」

TF1 「いいよー。」

JM3 「よし。ちょっと。」

【会話④】

TF2 「じゃ、コレ、明日買ってあげるから。ごめんなさい。」 …… 【陳謝】

JM4 「わかった。オッケー。」

TF2 「ごめん。」……【陳謝】

JM4 「オッケー。」

TF2 「うん、ありがとう。」……【感謝】

談話の終結部では、4つの会話のうち、【会話①】TF1:「不好意思。謝謝。(ごめんなさい。ありがとう。)」(陳謝+感謝)及び【会話②】TF2:「不好意思、對不起啦。(悪かったね。ごめんなさい。)」(陳謝)、そして【会話④】TF2:「うん、ありがとう」(感謝)をみることができた。それと対照的に、【会話③】では陳謝か感謝のような言語表現は特にないようである。このことから、学習者は日本語使用の場合、謝罪行為の談話の終結部では、必ずしも陳謝か感謝のようなことばを使用するとは限らず、そのまま終わらせる場合もあるという示唆が得られる。

その一方、現代日本語では謝罪行為の終わりに何かを言おうとしたら、どちらかといえば陳謝であるのが一般的であるのに対し、本実験では学習者は陳謝のほかに、感謝も述べる傾向がみられた。それには日本語母語話者は少々違和感を感じるだろう。これは語用論的転移、つまり母語の中国語の「謝謝(ありがとう)」からの影響を受け、そのまま目標言語の日本語に転用したものだと考えられる。

6. まとめ及び今後の課題

本研究による分析結果から学習者の謝罪行為の習得過程において、いくつかの中間言語の特徴があることが明らかになった。

まず、1) 謝罪ストラテジー：母語も目標言語も同じような傾向がある、2) 修復作業の遂行：中国語では「心情表明」+「詫び表現」を多用するが、日本語では「詫び表現」のみの使用が目立つ、3) 定型表現の使用：中国語ではあまり使用しないが、日本語では頻繁に使用する、4) 再謝罪の有無：中国語でも日本語でもみられた、5) 談話終結部の発話：陳謝のみならず、感謝の言語表現もある、の5つである。

以上の分析は、二人の学習者の談話を質的に検討したものに過ぎず、その傾向を直ちに中国語を母語とする日本語学習者はこうであると言い切ることは危険である。ただ、接触場面において、学習者の中間言語が存在し、また母語からの語用論的転移との相乗作用で、目標言語と異なる表現が現われる場合があると言える。今後は、その傾向をどの程度一般化できるか、そして学習者の習得過程に与える影響がどのようなものであるかをより詳しくみていくため、これからはさらにデータを増やし、その特徴や日本語母語話者との相違点について調べていくつもりである。

付 記

本研究は2011年8月19日～8月21日に(8月21日口頭発表)中国・天津にて行われた2011ICJLE世界日本語教育大会で口頭発表したものを骨子とし、大幅に加筆・修正したものである。この場を借りて大会当日に有意義なコメントをくださった方々に感謝の意を表したい。特に、会話実験に協力してくれた学生たち、そ

して本稿の作成に有益な助言をくださった真理大学松本さち子先生に厚く御礼申し上げたい。

〈注〉

(1) 本研究の対象とした各協力者の詳細は次のようである。

協力者	身分	性別	年齢	学習歴	日本語 レベル	日本語 能力試験	取得	母語	家庭使用 言語	日本滞在 経験
TF1	学習者	女	21	3年	上級	N2	2010年	中国語	中国語	なし
TF2	学習者	女	22	4年	上級	N2	2010年	中国語	中国語	なし
JM3	母語話者	男	22					日本語	日本語	
JM4	母語話者	男	21					日本語	日本語	

参考文献

- 内山和也 (2005) 「日本人の謝罪行動における順序構造について」 第二屆應用日語國際學術研討會論文集『中日韓三國人文科學之研究與應用』 pp.75-89
- 大谷麻美 (2008) 「謝罪はどのように遂行され、どのように解釈されたのか—英語の謝罪談話のケーススタディ—」 『社会言語科学会第21回大会発表論文集』 pp.64-67
- 郭碧蘭 (2011) 「日本語学習者の謝罪表現に関するケーススタディ」 『跨文化交際中的日語教育研究 (異文化コミュニケーションのための日本語教育①)』 2011 ICJLE 世界日本語教育大会論文集, 高等教育出版社, pp. 675-676
- 熊取谷哲夫 (1993) 「発話行為対照研究のための統合的アプローチ—日英語の「詫び」を例に—」 『日本語教育』 79号, pp.26-40
- (1994) 「発話行為としての感謝—適切性条件, 表現ストラテジー, 談話機能—」 『日本語学』 13 (7) 明治書院, pp.63-72
- 鮫島重喜 (1998) 「コミュニケーションタスクにおける日本語学習者の定形表現・文末表現の習得過程—中国語話者の「依頼」「断り」「謝罪」の場合—」 『日本語教育』 98号, pp.73-84
- 中道真木男・土井真美 (1993) 「日本語教育における謝罪の扱い」 『日本語学』 12 (11) 明治書院, pp.66-74
- 中田智子 (1989) 「発話行為としての陳謝と感謝」 『日本語教育』 68号, pp.191-203
- 彭国躍 (2005) 「現代日本語の謝罪発話行為の種類と機能」 『日本語学』 24 (4) 明治書院, pp.78-90
- 三宅和子 (1994) 「「詫び」以外で使われる詫び表現—その多用化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係—」 『日本語教育』 82号, pp.134-146
- Fraser, B. (1981) On Apologizing, In F. Coulmas (Ed.), *Conversational routine: Explorations in standardized communication situations and prepatterned speech*, Hague: Mouton, pp.259-271
- Selinker, L. (1972.) Interlanguage. *IRAL*, 10 (3), pp.209-231. (Reprinted in J. C. Richards (ed.) 1974, *Error analysis: Perspectives on second language acquisition*. Longman.)